

指定棚田地域振興活動計画

作成主体の名称：川内野棚田協議会

1 指定棚田地域振興活動を通じて保全を図る棚田等に関する事項（棚田等の名称及び範囲）

川内野棚田

範囲については、別添 1 のとおり。

2 指定棚田地域振興活動の目標

（1）棚田等の保全

- ・耕作放棄の防止・削減
 - 令和 6 年まで川内野棚田における耕作放棄地の現状を維持する。
- ・生産性・付加価値の向上
 - 令和 6 年までに川内野棚田で農業用ドローンを 1 台導入し、共同防除面積を現在の 0ha から 5ha へ増加させる。
- ・農産物の地産地消の推進と直売所等への販売促進
 - 令和 6 年までに農産物の地産地消推進のための集出荷の管理と買い物支援を担当する集落支援員を 1 名雇用する。
- ・棚田周辺の環境保全
 - 令和 6 年までに地元企業と共同で川内野棚田へのアクセス路の維持管理作業を年間 2 回以上実施する。

（2）棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

- ・農産物の供給の促進
 - 令和 6 年までに黒米の作付面積を 35a から 50a に増加させる。
- ・自然環境の保全・活用
 - 川内野棚田で将来の担い手である地元小中高生への農業体験スクールや市内の保育園小学校へ出向き、黒米ごはんや黒米うどん、クッキー、かりんとうなどの黒米料理を一緒に作る食育活動を年間 5 回以上開催する。
- ・良好な景観の形成
 - 川内野棚田の景観保全のため、アクセス道路沿いの桜並木やツツジ園、アジサイや彼岸花の植栽、管理に地域一丸となって取り組む。
- ・伝統文化の継承
 - 川内野地区の「山ノ寺遺跡」には多くの遺跡が存在し、保存会を中心に草刈、清掃等を行い、毎年 12 月 1 日に行われる「山ノ寺例祭」には県内外より 100 人の観光客の誘客を目指す。
 - 地区に伝わる浮立は市内最古と言われており、地元の夏祭りや供日の折、区民や里帰り者総出で実演し、伝統文化を継承している。

（3）棚田を核とした棚田地域の振興

- ・棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興
 - 川内野棚田では民泊を通して、都市住民や学生との農村交流体験を年間 5 回

以上開催し、参加者数を10名から30名に増加させる。

毎年5月5日には、都市住民との交流イベント“夢の市”が開催され、巨大鍋で作る2,000人分の黒米だご汁“元気鍋”を提供等、2,000人の参加者を確保する。

- ・ 棚田を観光資源とした地域振興

川内野棚田にある交流センター「夢耕房たきの」と無線放送システムを完備している公民館をコミュニティ拠点として維持管理を行い、最大限利活用して行く。

令和6年まで佐賀大学農学部地域資源学研究室とのコラボ事業“イノピカプロジェクト in 川内野”を実施して新しい交流資源を創出する。

- ・ 棚田米等を活用した六次産業化の推進

令和6年までに黒米の加工用米としての販路を確立させるため、生産量を現在の840kgから1,200kgへ増産する。また黒米を原料とした加工品販売量を増加させる。

3 計画期間

認定の月～令和7年3月

4 各年度において行う指定棚田地域振興活動の内容及び実施主体に関する事項

(1) 指定棚田地域振興活動の内容

以下の指定棚田地域振興活動について、別添2の工程表に基づき実施することとする。

棚田等の保全

- ・ 耕作放棄の防止・削減

地区のボランティア団体「川内野コメCOME倶楽部」や地元建設会社と連携しながら、川内野棚田の耕作放棄地の耕起や草刈りを行い、維持減少に努める。

地区内耕作地の保全活動を維持継続するために、作業の一部を委託するための支援員を雇用する。

- ・ 生産性・付加価値の向上

川内野棚田において、ドローンによる農薬、肥料散布や精密農業、害獣対策等スマート農業の取組を推進する。

- ・ 農産物の地産地消の推進と直売所等への販売促進

令和6年までに農産物の地産地消推進のため、集出荷を担当する集落支援員を雇用し直売所での販売を推進する。また地域高齢者のための買い物支援も行う。

- ・ 棚田周辺の環境保全

地元企業（金崎建設株）と共同で川内野棚田への進入路の草刈り、支障木伐採やワイヤーメッシュへのイルミネーション作業を年間2回以上実施する。

棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

- ・ 農産物の供給の促進

黒米の生産量を増やし、黒米とそれを原料とした加工品の販路を拡大する。

- ・ 自然環境の保全・活用

川内野棚田で地元小中高生らに向けた農業体験や都市部の学生や海外旅行

者の民泊を受け入れ、自然ふれあい活動（自然観察、草木染等）や食育の取組などの豊かな自然環境を活用して関係人口の創出・拡大を図る。

- ・良好な景観の形成
 - 川内野棚田のアクセス道路沿いの玄海国定公園“竹の古場公園”の景観整備や農閑期には菜の花、コスモス畑を作り景観保全に地区を挙げての取組み、棚田に気持ち良く訪問できる環境を整える。
- ・伝統文化の継承
 - 地区内に現存する山ン寺遺跡は、約 800 年前、九州西北部を治領していた松浦党が本拠地を構えたところで、昭和 45 年に山ン寺史跡保存会が結成され、毎月老人会や婦人会と連携して清掃活動を行っている。また毎年 12 月 1 日の山ン寺例祭や正月に行う「山ン寺歩こう会」が開催され、県内外からの 100 人の訪問客や参加者を確保する。
 - 浮立の型の一つである「舞浮立」は、近年若者の流出により長らく途絶えていましたが、集落の古老らの指導により 50 年ぶりに復活し、地区の夏祭りなどで披露され、世代を超えた連帯感の育成が行われている。

③ 棚田を核とした棚田地域の振興

- ・棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興
 - 川内野棚田では伊万里グリーンツーリズム推進協議会及び松浦党交流公社（松浦市）と連携して、都市部や海外からの農家民泊を受入れ、「夢耕房たきの」で黒米を使った菓膳料理やうどん作りと草木染の講習会を開催している。
 - 平成 14 年から開催している“夢の市”は、都市住民との交流大イベントで、老人会は竹細工、女性倶楽部はバザー、生産組合は農産物の販売、夢耕房グループは黒米を使った加工品の販売を行っており、また巨大鍋で作る 2,000 人分の黒米だご汁“元氣鍋”は地区の名物として好評を得ている。
- ・棚田を観光資源とした地域振興
 - 平成 11 年に整備された「夢耕房たきの」では、川内野棚田で行う各種イベントの活動の拠点地となっており、平成 30 年には地区公民館に無線放送システム（親局）が完備され、各戸に設置している戸別受信機（子局）との間で棚田情報の共有を図っている。またホームページやフェイスブック等の情報発信ツールを駆使しての広報活動等でリピート客の増加と新規顧客の発掘に努める。
 - 平成 30 年より佐賀大学農学部地域資源学研究室とのコラボ事業“イノピカプロジェクト in 川内野”を実施しており、イノシシ防護柵のワイヤーメッシュをイルミネーション化することで景観の向上を図り、地域に大学生や観光客を呼び込んだ新しい交流資源を創出する活動を行う。
- ・棚田米等を活用した六次産業化の推進
 - 収穫された黒米は、直接販売するだけでなく、黒米を使った農産加工品の開発（黒米うどん、黒米パスタ、黒米みそ、黒米ようかん、黒米アイスなど）を行い、地元 JA やネット通販等で販売し好評を得ている。
 - 平成 18 年から伊万里農林高校（現伊万里実業高校）と連携し黒米の加工品等の開発研究を続けており、今後も継続した取り組みを実施する。

(2) 指定棚田地域振興活動の実施主体

上記(1)に掲げる指定棚田地域振興活動の実施主体は、主に下記5の指定棚田地域振興協議会の参加者である。

5 指定棚田地域振興協議会に参加する者の名称又は氏名

川内野棚田協議会は、農業者、農業者団体、地域住民、企業、伊万里市、佐賀県で構成。

参加者の名称又は氏名については、別紙のとおり。